2019年　11月　　JBBF国内宣教委員会　機関誌　第80号

かいたく

教会のない地域に教会を　刈り入れ場に働き人を

災害ボランティア活動
「諸教会から各地の被災地へ」

翌日の地元紙に某教会の兄弟が作業する写真が載りました。
信濃毎日新聞１０月２２日の朝刊より掲載（使用許諾済）

「だから、収穫の主に、ご自分の収穫のために働き手を送ってくださるように祈りなさい。」
（マタイの福音書九章三十八節）

毎日、朝と夜の九時三十八分に、妻のスマホのアラームが鳴ります。それは八月に行われた全国聖会で、ジョン・カナラップ先生が勧められた９・３８チャレンジを受けてのことです。カナラップ先生は毎日この時間に主のための働き人が全世界に多く起こされるように祈っておられるそうです。そして、このチャレンジは各国に広がっています。

つい先日、ＪＢＢＦにとって大切な柱の一つと呼ぶにふさわしいお一人の先生を主のもとに見送りました。私たちには復活の日に再び会うことができる希望がありますが、牧師を失った教会のため、牧師のいない教会のため、そして、更に多くの地域に福音宣教がなされるために、私たちは主に働き人が起こされるようにと祈っていかなければなりません。

話題が小学校の算数の話になりますが、紙に書いて計算を行う筆算で、定規を使わなかったらやり直させられたということが話題になりました。きれいに記録できるという理由もありますが、「昔からやっているから」「そう指導されたから」という慣習に従っての理由もあります。そうした「そう決まっているから」という思いは、筆算だけに限らず私たちの日常にもいっぱいあると思います。

フェローシップは七十年を迎えました。働き人の課題を含め様々な課題を、「そう決まっているから」という思考で終わらせず、主から新たなチャレンジをいただいて前進していきたいです。ぜひ、来年一月の「宣教カンファレンス&合同ミーティング」のためにお祈りください。

（ＪＢＢＦ国内宣教委員長・榎本昌博）

かいたく　2019年11月発行　第80号　発行元JBBF国内宣教委員会　長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉4696−27　編集責任榎本 昌博　デザイン定田 健次

２０２０年１月９日（木）・１０日（金）

宣教カンファレンス&合同ミーティング

わが子よ、主の懲らしめを拒むな。その叱責を嫌うな。父がいとしい子を叱るように、主は愛する者を叱る。幸いなことよ、知恵を見出す人、英知をいただく人は。（箴言三章十一〜十三節）

日本に限ったことではないと思いますが、国内にあるキリスト教会の現状を見るとき、信徒の減少や牧師のいない教会の増加など、多くの課題を抱えています。こうしたネガティブなことを書くと嫌がられるかもしれませんが、この状況を主の前に謙虚に受け止めて、悔い改めと信仰によって歩み出すときに、主が私たちに知恵と力を与えてくださると信じています。

国内宣教委員会では毎年一月に開催されている国内宣教カンファレンスを、来年2020年のみフェローシップの将来を語り合う、理事会、神学校、海外宣教委員会、そして国内宣教委員会合同の集まりを企画いたしました。

フェローシップは70年を迎え、全国聖会にてこれまでの守りを感謝し、主がおいでになる日まで共に福音宣教の業に励むことを確認致しましたが、教会の少子高齢化、後継者不足、無牧教会、伝道の行き詰まりなど様々な課題を抱えています。

JBBFは自主独立のそれぞれの教会が、宣教と神学校のために協力する自由な交わりです。そしてこの交わりがあったことにより、多くの教派が自由主義やカリスマ的神学に流れて行く時代の中で、戦後一貫して、聖書の無謬性を告白する保守的な牙城として、私たちの信仰が守られてきたと思います。それをこれからも保ち、主がおいでになる日まで、聖書信仰を守りつつ、お互いに協力し合って福音宣教の業に励んでいきたいと願っています。しかし、そのためには上記にあげた課題などを共有し、また取り組んでいかなければなりません。

今回は、ひとりでも多くの方にご参加いただきたいと願い、参加費と交通費（申請者）を全額サポートという形で開催致します。それも大きなチャレンジであり、諸教会から捧げられた尊い献金を用いて行いますので責任を感じております。しかし、「実行することに意義があります」との励ましの言葉などをいただいております。多くの先生方はアルバイトなどをされていて都合を付けることが難しかったりすると思いますが、ぜひ多くの方にご参加をいただきたいと心より願っております。よろしくお願い致します。

献金のお願い

今回のカンファレンスは、参加費と交通費を全額サポートという形で開催いたします。もし例年と同じ参加者がある場合、70〜80万円の必要を覚えています。現在、理事会より全国聖会の献金の中からいくらかの支援の申し出があります。また、全国聖会の時に献金のお願いをしましたが、さっそく個人の方から10万円の指定献金をいただきとても勇気をいただいています。ぜひ、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

献金振込先（郵便振込）
００１４０・２・６５４３７５
ＪＢＢＦ国内宣教委員会

日　程：2020年1月9日(木)･10日(金)
場　所：静岡県富士宮市「朝霧野外活動センター」
対　象：JBBF諸教会教役者および夫人･婦人伝道師
主　催：JBBF国内宣教委員会
参加費：無料
交通費：申請者の方に全額サポート

※申し込みは12月1日締め切りです
※詳細は同封の案内をご覧ください

滝山教会を退任し葛西教会に来て教えられたこと

葛西聖書バプテスト教会
牧師：大木英雄

私は41才から74才まで33年間、滝山教会に仕えさせていただき、２０１２年に滝山教会を退任し、退任したあと1年間は滝山教会の礼拝に出席させていただきましたが、その後どうしても開拓伝道をしたいと思うようになりました。名古屋教会主催の宣教大会で…私は「だれを遣わそう。だれが、われわれのために行くだろう」と言っておられる主の声を聞いたので、言った。

「ここに、私がおります。私を遣わしてください」（イザヤ書六章八節）の御言葉が与えられました。そして祈っていると滝山教会の礼拝で…ある夜、パウロは幻を見た。ひとりのマケドニヤ人が彼の前に立って、「マケドニヤに渡って来て、私たちを助けてください」と懇願するのであった。（使徒一六章九節）という御言葉が与えられました。そんな時、高田先生から葛西教会に来て助けてくださいと言われました。私は葛西教会に導かれたことを確信しました。

我が家から葛西教会まで、西武新宿線から東西線に乗り継いで1時間20分かかります。私は講壇から福音を語らせていただくことが、こんなに嬉しいことだということを実感しました。一生懸命やる中、失敗から教えられたこともあります。ある時、葛西教会に新しい青年が来ました。彼は大学を卒業しているのですが、就職ができないのです。彼は父親から就職するように毎日言われていました。私は滝山教会で弟子訓練が祝福されたので、彼も弟子訓練をやれば神様を信じて就職できると考えたのです。そしてカンザス・シティ・バプテスト教会の16課の学びを1回2時間毎週やりました。しかし、彼はその学びを終えてもバプテスマを受けないのです。だんだん礼拝にも来なくなり、遂に1日も来なくなりました。カウンセリングに「教えようとするな、解ろうとせよ」という鉄則がありますが、私は大学を出ているが就職できない、彼の心の悩みを解っていなかったと反省しています。私は就職で悩んだことは一度もありません。肩こりがひどくて大学院を修士で辞めた時も、近所の浪人生の数学の家庭教師をしていました。その浪人生は京都大学に合格したのです。その浪人生の父親が私立高校の教務主任をしていたので再三勧められました。私は研究者で教育者ではないので教師にはなれないとお断りしましたが、1年だけでと言う条件で教師になりました。ですから就職できずに悩んでいた彼の気持ちを理解することができなかったのです。

「教えようとするな、解ろうとせよ」は私にとって一生の課題です。相手が何を悩んでいるかが解らなければ助けようがないのです。…人の心の高慢は破滅に先立ち、謙遜は栄誉に先立つ（箴言一八章一二節）。人間はうまく行くと高慢になり、うまくいかないと落ち込む、自分は何とやっかいな罪人なんだろう、このような、どうしようもない罪人の私をイエス・キリストは愛して十字架で命まで捨ててくださいました。…しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます（ローマ五章八節）。どうしようもない罪人の私を愛して命を捨ててくださったイエス・キリストの愛を地上で残された日々、宣べ伝える事ができればこんな嬉しいことはありません。

特集 牧会を引き継いだ後の働き

開拓に仕える楽しさ

船橋聖書バプテスト教会
柏伝道所牧師：三澤隆男

イエスは彼らに言われた。「さあ、近くの別の村里へ行こう。そこにも福音を知らせよう。わたしは、そのために出て来たのだから。」
マルコ一章三八節

2016年春、船橋聖書バプテスト教会の新会堂献堂式を終えた時点で、一年前に移り住んでいた柏市北西地区の借家で日曜午後の集会を開始しました。2か月後には開拓から49年余に及ぶ船橋での奉仕を終了、安藤修司牧師に交代し、柏開拓伝道に専従することになりました。牧師辞任の時が74歳、教会の片隅で静かに過ごさせてもらうことも考えました。しかし、健康にも恵まれた私たち夫婦は、果たせずに来てしまった「教会が次の教会を産み出す」という開拓伝道の、せめて足掛かりを築くだけでも奉仕できればと、教会にお願いしました。その際に与えられたのが冒頭の主イエスのお言葉でした。柏伝道の模索は、すでに2010年に着手した経緯があり、その時は、伝道者の転出ということもあり、半年程で中止となりました。教会は検討の上、私たちを柏市での開拓伝道に派遣することを決議してくれました。

柏市は人口43万人の千葉県北西部に位置し、都心に40分程の町です。市を南北に常磐線とつくばエキスプレス線それに水戸街道と常磐自動車道が並行して走り、東西に東武線と16号線が横切って通っています。伝道所は、市の西北端、北側が利根川、西側が野田市に接するところに位置する町にあり、住民の大半が高齢者という住宅地にあります。しかし、近くにつくばエキスプレスの駅ができ、その周辺に新しい住宅地が急速に開発されているところでもあります。船橋市からは、車で1時間半ほどの距離ですが、母教会の応援団が、案内誌の配布や励ましのためにしばしば来られて大いに助けられています。

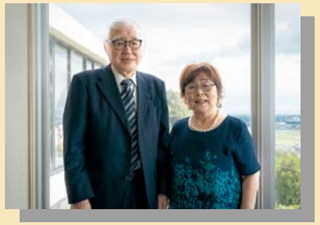
伝道所の集会は、私たち夫婦と近くの高齢の教会員2名の計4名で始まりました。でも、知り合いの兄姉たちの参加も当初から与えられ、現在は8名程の出席を得て守っています。小さな集いですが、福音の豊かさを味わい、神への感謝と信従の思いを込めて礼拝をささげようと願っています。何よりも新たな求道者が与えられることを祈りつつ、案内誌をこまめに配布し、ホームページの更新を心がけています。

今のところ反応はありませんが、期待しています。許されるなら、私たち伝道者が元気な中に、10名の教会員が与えられ、後継伝道者を迎えることを夢見ています。

夫婦合わせて150歳を超え、50年ぶりの開拓伝道で戸惑いますが、祈りつつ散歩を兼ねて家ごとのポストに福音の種を蒔きことは楽しく。聖書に目を凝らしつつ、レキシコンや注解書を眺め、新たな発見に胸を躍らすことも喜びです。あと数年、この奉仕が許されるようにと願っております。

すべての造られた者に

名古屋聖書バプテスト教会
国内開拓宣教師：上田晃



「すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい。」
マルコ一六章一五節

「わたしにはまた、この囲いに属さないほかの羊がありません。わたしはそれをも導かなければなりません。」
ヨハネ一〇章一六節

主に献身した時、主は私に、聖霊によって、前掲のみことばを与えてくださいました。私の召しは、福音を宣べ伝え、人々が福音を信じて救われる働きをすることと確信しました。献身した翌日から、教会に来たくても、来られない地域に住んでおられる、他の人々のもとに遣わしてくださいと祈りました。しばらくして京都府下の北部の農村に遣わされる道を主は開いてくださいました。昼は農機具修理の仕事と訪問伝道。夜は時には公民館などで伝道集会を開きました。主は救われる人も起こしてくださり、救霊の喜びに参加させていただきました。主はともに働いてくださり、栄光をあらわされ、感謝に溢れました。

三年後、神学校に入学。卒業後、名古屋聖書バプテスト教会に招かれましたが開拓伝道で召しとおりでした。開拓伝道の時から開拓伝道をする。三重県の桑名は名古屋教会の最初の開拓伝道地でした。一人の兄弟が救われ、今も名古屋教会の忠実な証人です。名古屋教会は当然のように伝道教会としてのビジョンが有りました。礼拝と聖書学び、他区域のひかりの子会、農村僻地伝道。他府県における開拓伝道の四本柱を立てて教会形成が、主によって成されました。主はみことばを伝える献身者を複数人呼び出してくださり特に他府県における開拓伝道のビジョンを実現する道を開いてくださいました。歳月はかかりましたが、8県、11箇所で開拓伝道が成され、教会が誕生し、今日に至っております。

55歳までは伝道者を派遣し、支援させていただく立場でしたが、召命の原点に帰って、この囲いに属さない他の羊を捜し導くために、名古屋教会から国内（開拓）宣教師として派遣されました。瀬戸内海南岸には教会がありません。以前から高知集会を続けてきたこともあり、山陽・山陰・近畿・四国の十字路でもある岡山県に迷うことなく主の導きを信じて送り出していただきました。開所式の日、名古屋教会から、何十人もの兄姉がきてくださり、大きな喜びがありました。瀬戸内ラインに福音の布石が置かれたのです。主と岩尾師に委ね、名古屋教会に戻り、次の伝道地は岡崎でした。オウム事件などがあり、宗教に対する警戒心が強く、集会のための借家を探すのに時間がかかりました。これは過去に経験したことがない試練でした。岡崎では二回の場所替えのあと、今の会堂が与えられました。会堂が狭くなったこともあり裏庭に会堂を増築しました。また、すでに始めていた上田市伝道に、神学生方の協力をいただいて、公の施設である上田創造館で上田聖書講座を始めました。主はいつの時にも助け手を備えられ、一人では成しえない主の働きを可能にしてくださいます。

岡崎伝道所（1998年）

岡山伝道所（1991年）

上田創造館での聖書講座（2002年）

願みますに、今は遣わされる者として、これまでに遣わされて、伝道をされた先生方に対し、行き届かないことが余りにも多く、ご苦労をおかけしたこと深い反省があり、恥じ入ることの多い今日この頃です。それにしても主は先生方をお支えくださり、何十年にわたり伝道と牧会を続けてこられたことに深い感謝と敬意を覚えます。一粒の麦が主にあって死ぬなら、主キリストは約束のとおり栄光をあらわしてくださるのです。ハレルヤ

つくば伝道所に遣わされて

横浜聖書バプテスト教会
宣教牧師：山宮利忠

主は私にかかわるすべてのことを、なしとげてくださいます。主よ。あなたの恵みはとこしえにあります。あなたの御手のわざを捨てないでください。
詩篇三八篇八節

1959年から横浜でお仕えして60年の時が過ぎました。70歳で退任する計画を立て、5年前から後継者を迎える準備を始め、幸い5年間つくばで開拓を経験した長江伝道者（現横浜教会牧師）の後を引き受けて、再び開拓伝道の恵みに預かり、毎週横浜からつくばへ通う生活が始まりました。

この3年半の主の恵みを数えると実に多くありますが、その内の幾つかを挙げて主に感謝致したく思います。

病の中で主にお仕えする恵み

まさしく「私の恵みは、あなたに十分である」との主のお言葉通り、病の中で得ためぐみは、主のお言葉を伝える者として、本当の資格を頂いたように思えます。現在一級の障碍者ですがそれでも伝道所の務めを継続でき、近隣の他の教会からのお招きにもお応えできていることは、全く主のお恵みと言うほかありません。弱い時にこそ強いという逆説を体現しています。その働きを可能にしているのは、背後にある派遣教会であり、その祈りと援助があるからこそ、外に向かってお仕えする働きを可能にしてくれているわけで伝道者にとって、教会こそが、その働きの実としての証であることを痛感させられています。今がこれまでの伝道生涯で最も充実した時ではないかとも思わされています。私に与えられた務めを成し遂げてくださるのは主です。

伝道所への主のお恵み

開拓10年間で沈没しかけた伝道所でしたが、主は、伝道所に魂を御集めくださりつつあります。ただ近隣から新たに救われて集められた人は一人もいない現状を思い知らされている地方教会の現実ですが、主は、不思議な方法で魂を伝道所に集め、お預けくださっています。

私がつくばへ派遣されてから4人の受浸者、3組の結婚、8組のクリスチャンホーム、2人の赤ちゃん、近々にもう一人の赤ちゃんの予定、それぞれ近くに住む兄姉ではなく、遠くから集う方が多いのですが、実に忠実に聖日を守る聖徒たちです。主の憐れみと言うほかありません。

伝道所の切実な祈りと願い

現在伝道所のある場所は、つくばでも最も古い分譲住宅の中にあり、築40年を越す家が多く、その一角にある伝道所は、わかりにくい日本家屋で、静かな高齢者の多い環境は、雨戸の開け閉め、車のドアの開け閉め、賛美の声も気にしつつ歌わなければならない中で、一日も早く何処にも迷惑をかけずに礼拝を捧げ、伝道活動が出来る場所へ移転したいという切実な願いで、祈っています。その為には、霊的必要経済的必要が山ほどあります。当然なことですが、つくば伝道所への永続的な伝道者の必要があり、横浜で後継者を祈ったように、伝道所でも同様に後継者を迎える準備が求められています。その実現の上で11年目を迎えた伝道所も独立を視野に入れて進むことができるに相違ありません。礼拝出席30名を目標に、さらに主の祝福を願って励みたく願っています。これまでの多くの方々の祈りとサポートを紙面をお借りして感謝致します。